

低出生体重児とそのきょうだいを育てる母親への 支援に関する実践研究

—保健師によるエンパワメントとピアカウンセリングに基づく支援から—

中島 育美¹・河村 瑞穂²・水内 豊和

Practical Study on the support of mother and infant with low birth weight infant and his bother

—Peer Counseling and assistance based on empowerment of the public health nurse—

Ikumi NAKAJIMA・Mizuho KAWAMURA, Toyokazu MIZUUCHI

核家族化や少子化が進み、母親は育児に悩みを抱えていても相談相手が身近にいないという現状がある。今回、第2子が低出生体重児で、かつ第1子の育児に悩みを持つ母親を対象に支援を行い、母親が前向きに育児を行っていくためにはどのような視点からの支援が必要であったか、また、育児不安を抱える母親への保健師の役割として何が重要か、巡回訪問の記録をもとに検討した結果、以下の4点が示唆された。

①成長のフィードバックや母の考えの後押しから気づきや効力感の強化を行い、母親をエンパワメントする。②母親の経験を引き出し、できている事を認め、思いを聴き、悩みだけでなくポジティブな感情を表出できるように支援し、母親の自己効力感を高める。③母親の思いなどを受容し、児をありのままを受け入れる事ができるように児のよいところに注目できるように促す。④家族や地域の力を活かす事ができるよう相談相手を共に確認し、ピアカウンセリングを通して今後も相談し解決できるように促す。

保健師には、このような支援と役割を通して、母親の育児の不安を軽減し前向きな育児に繋げていく姿勢が求められる。

キーワード：低出生体重児、エンパワメント、ピアカウンセリング、子育て支援、保健師
Key words : Low birth weight infant, Empowerment, Peer counseling, Parenting support, Public health nurse

I. はじめに

近年、核家族化や少子化が進み、母親は育児に悩みを抱えていても相談できる相手が身近にいないという現状がある。そのため、相談できる環境を整えるために、子育て支援のネットワークを作り、他の母子との交流を促進することなどが必要であると考えられる。本事例研究においては、第2子が低出生体重児で第1子の育児に悩みを持つ母親を対象とし、母親が前向きに育児を行っていくためにはどのような視点からの支援が必要であったか、また、育児不安を抱える母親への保健師の役割として何が重要か、巡回訪問の記録を

もとに検討した。

II. 事例概要

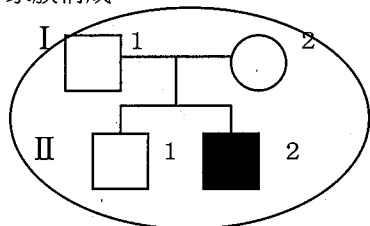
1. 児について

- (1) B児(男児)：低出生体重児
- (2) 生年月日：平成X年Y月
(初回インテーク時：4か月)
- (3) 出生時の状況
体重：2,300g台 身長：44.0cm台
頭囲：32.0cm台 胸囲：29.0cm台
在胎週数：38週

1) 富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)・特命助教
2) 富山県立総合衛生学院・保健師

アップガースコア：1分後、5分後共に正常値

- (4) 既往歴：重篤な既往なし
- (5) 健康状態：良好
- (6) 発育発達状況：表1参照
- (7) 生活リズム：図1参照
- (8) 家族構成



- I - 1：父…運送業
(就業時間は休日・夜間問わず不定期)
- I - 2：母…無職
- II - 1：兄…小学1年生 (A児)
- II - 2：B児

2. 母親の育児状況

初回訪問時の聞き取りから、母親は、A児の育児から時間がたっておりどのように育児をしたか忘れたと話すのが抱っこや声かけは落ち着いた様子で、B児が泣いても焦る様子はなくあやしている。A児に関する育児に悩んでいる様子があり、小学校の担任教諭には相談したようである。訪問する中で母親から「下の子より上の子の方が大変です。マイペースで、周りからも個性的といわれる事もあります。」という発言が聴かれた。また、会話の中で母親から「発達障害」という言葉も聴かれた。

3. 支援のねらい

初回訪問時の母親との面談から、以下のような健康課題、長期目標、短期目標を設定した。

(1) 健康課題

- ①母親がB児の発育・発達が順調である事を確認する事ができる。
- ②母親がB児の発育・発達の過程を理解し安全に育児ができる。
- ③母親が家族の協力を得ながら育児を楽しく行う事ができる。

(2) 長期目標

- ①B児が健康で順調に発育・発達し、安全に生活できる。
- ②母親が育児に対する不安を軽減し、自信をもって育児ができる。
- ③家族が地域の支援を得ながらそれぞれが協力しあって楽しく育児ができる。

(3) 短期目標

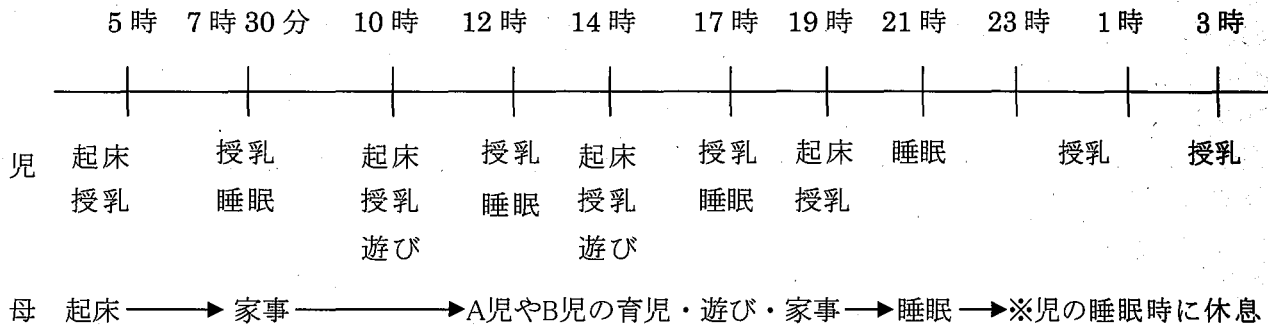
- ①母親がB児の発育・発達の状況を確認しB児の成長を実感しながら子育てができる。
- ②母親が離乳食のすすめ方を理解し見通しをもち実施する事ができる。
- ③母親はA児に対する幼さや育ちに関する不安や悩みを家族などに表出し不安の軽減ができる。
- ④B児の発達を理解し安全な環境を整え、実際に行う事ができる。

なお、本論では短期目標④に関しては、低出生体重児を持つ母親への支援に特有のものではないため、援助の実際の記述は割愛した。

表1 A児の発育・発達状況

	1ヶ月健診	保健師訪問	4ヶ月健診	訪問1回目	乳幼児クリニック	訪問2回目	訪問3回目
月齢	1か月	1か月11日	4か月	4か月17日	5か月3日	5か月9日	5か月29日
体重	3,995g	4,542g	6,250g	6,875g	7,030g	7,100g	7,220g
1日体重増加量	55.0g	48.9g	32.8g	32.8g	19.4g	5.3g	6.0g
カウプ指数	21.7		16.7		16.5	16.0	15.3
栄養		【混合栄養】 60～80cc (6～8回)		【混合栄養】 2時間間隔 粉乳 100～180cc ×2回(夜)	【混合栄養】 2～3時間毎 粉乳100～180cc×2 回(夜間) 【離乳食】 お粥(ポタージュ状) 1日1回(朝)	【母乳】 2～3時間毎 【離乳食】 お粥や野菜 ポタージュ状 1日1回(朝)	【母乳】 2～3時間毎 【離乳食】 お粥や野菜 どろどろ状 1日1回(朝)
発達	【運動】	定頸(－)	定頸(＋) 腹ばい(＋)	腹ばい(＋)		寝返り(±)	寝返り(＋) 座位保持(±)
	【感覚】	注視(＋) 音への反応 (＋)		追視(＋)			
	【精神】			喃語(＋)			人見知り(－)

図1 生活リズム



Ⅲ. 援助の実際

(1) 短期目標①：母親がB児の発育・発達の状況を確認しB児の成長を実感しながら子育てができる

事実・アセスメント	支援・反応	評価・考察
<p>1. B児の発育を母親と確認する。</p> <p>【情報】 ○表1参照 ○B児の様子 ・手足動き：活発 ・啼泣：あり ・機嫌：良好</p> <p>【アセスメント】 B児の発育は月齢相当であり、順調である。 その根拠として、B児の体重は正常な範囲内である事、カウプ指数も正常の範囲内である事があげられる。また、機嫌もよく、手足の動きも活発である事があげられる。成長曲線から判断しても緩やかな右肩上がりの曲線で順調な発育であると考えられる。</p>	<p>【支援】 母親と共に成長曲線にB児の発育状況を書き込み、B児の発育を確認する。体重の推移、1日平均体重増加量、カウプ指数から順調な発育である事を伝え、一緒に喜んだ。</p> <p>【反応】 <u>訪問1回目</u> 「体重は増えているかな？」と嬉しそうにB児を体重計に乗せる。体重をみて「大きくなったね。」と嬉しそうにB児をみつめ話しかける。 <u>訪問2回目</u> 前回の体重より70gの増加に対して「思ったより増えてないけど朝にうんちしたからですかね。」と安心した様子で話す。 <u>訪問3回目</u> 自ら成長曲線のグラフをみて「標準だ。大丈夫ですね。」と安心した様子で話す。</p>	<p>B児は低出生体重児であったが、B児の発育は一般的な発育経過であり、順調である。母親の表情や言葉から母親はB児の体重の増加をとて楽しみにしていた。そして、計測をし、体重が増えていく事を成長曲線などから実感する事で発育の確認ができ、B児の発育を実感しながら子育てができたと推測される。そして、これらの事は母親が育児を楽しく前向きに行う事に繋がっていくと考えられる。</p> <p>2回目の訪問時には、あまり体重が増加しなかった事に対して適切に母親が判断していた。その母親の考え方を後押しする事で母親が今後育児を行っていく上で正しい知識を持ち育児を行っていく事や自分で課題を客観的に捉えて解決・維持する力に繋がったことがとうかがえる。そして、母親は成長曲線を理解し自身で判断する事ができ、この事は母親がB児の発育を捉え、育児を行っていく上で大切であったと考えられる。</p>

<p>2. B児の発達を母親と確認する。</p> <p>【情報】表1</p> <p>【アセスメント】</p> <p>B児の姿勢、反射、感覚、微細運動、心理・社会・情緒は正常であり順調に発達している。</p> <p>その根拠として、寝返りができるようになるなどB児が順調に発育している事や引き起こし反射では四肢屈曲し頸が持ち上がる事、おもちゃなどをつかむ様子も見られる事、喃語が活発である事などがあげられる。</p>	<p>【支援】</p> <p>B児の姿勢や反射、感覚、微細運動や心理・社会・情緒的発達が順調である事を母親に伝えた。</p> <p>また、発達を促すために腹ばい運動の実施についてポイントなどを伝えた。</p> <p>2回目以降の訪問では、発達が順調である事を伝えると同時に、発達面で前回とどのように違うかなどを具体的に母親に伝え、発達を母親と一緒に喜んだ。</p> <p>例)寝返りがスムーズにできるようになっている事など前回訪問時の寝返り時の様子を伝えて、一緒に発達を喜ぶ。</p> <p>【反応】</p> <p><u>訪問1回目</u></p> <p>A児と比べB児は定頸が早かった事(定頸:生後3ヶ月頃)を嬉しそうな表情で話し、腹ばい運動に積極的な様子であった。</p> <p><u>訪問2回目</u></p> <p>「そうですよね!いろいろできるようになって。」と嬉しそうに話す。</p> <p><u>訪問3回目</u></p> <p>「そっか!この間はそんなに寝返りもできてなかったよね。」と思い出し嬉しそうに話す。</p>	<p>B児の発達は月齢相当であり順調な発達である。訪問時に発育状況について前回の訪問時からのよい変化などを客観的に、そして具体的に伝える事で、母親の発言や表情から母親はB児の発達を実感する事ができたと考えられる。</p> <p>3回の訪問を通して、B児の成長を振り返る関わりを行い、B児の成長を楽しむ事に繋がっていきポジティブフィードバックとなり前向きな育児へと繋がったと推測される。</p> <p>これらの関わりを通して、母親はB児の発育・発達が順調である事を実感し、母親の行動や考えを後押しする事で母親をエンパワメントする事ができ、前向きな育児に繋がったと考えられる。</p>
---	---	--

(2) 短期目標②:母親が離乳食のすすめ方を理解し見通しをもち実施する事ができる

事実・アセスメント	支援・反応	評価・考察
<p>離乳食についての子育て経験を生かし進め方を確認し、正しい知識を得て実践できる。</p> <p>月齢5か月9日~29日</p> <p>【情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表1参照 ・開始時期:5か月0日~ <p><母親の発言></p> <p>「作り方などは分かるが、どんな食材を使っていいか忘れた。」</p> <p>【アセスメント】</p> <p>母親はA児の子育て経験があり離乳食を作る事や食べさせる事はできると考えられるがA児は7歳であり時間が経</p>	<p>【支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①母親のA児の時の離乳食についていつごろから始めたかやどのようなものを使用していたかなど会話の中で振り返りを行った。 ②子育て経験を生かしながら、パンフレットを用いて各期における離乳食のポイントや使用できる食材を伝え、正しい知識を得て実施できるように支援した。 ③母親の工夫点などを認める関わりを行った。 <p>○パンフレット</p> <p>訪問2回目…離乳食初期</p> <p>訪問3回目…離乳食中期・後期</p> <p>【反応】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①A児の育児の事を思い出し「9ヶ月ごろになると楽だった気がする。」など話す。 ②「貧血の防止にレバーとかがいいのだ。」 	<p>母親はA児の子育てから時間が経っており忘れていた部分もあった。A児の時の離乳食について振り返らせる事やパンフレットで離乳食の流れを確認する事で母親の様子から離乳食について再確認する事ができ、子育て経験を生かし正しい知識を得て実践する事に繋がったことがうかがえる。また、パンフレットをもとに離乳食完了までの展開が分かり母親は見通しをもち育児に取り組む事ができるのではないかと考えられる。</p> <p>A児の時の事を思い出す事や母親の工夫点を認める事は母親の育児への意欲を高め前向きな子育てに繋がると推測される。この事は母親のこれまでの成功体験を引き出す事に繋</p>

<p>過している事で、少し忘れて いる部分や悩んでいる部分 があると考えられる。</p>	<p>と母親はパンフレットを通して確認して いる様子であった。 ③小分けに冷凍したり、味付け前の物 を取り分けたりと工夫している点を 認めると「そんな事ないですよ。」と 誇らしげに笑顔で話す。 <母親の思い> 支援を通して母親は、離乳食につ いて、「初めての物を食べさせる時 がとても楽しみです。どんな表情で 食べるのか。上の子と違うところ も見つける事ができてうれしい です。」と話す。</p>	<p>がり、離乳食について母親からは、 「楽しい」や「うれしい」という 言葉が聴かれ離乳食に対して前向 きな気持ちで児の反応を楽しみに 育児を行っていることがうかがえ る。また、工夫点を認め、ねぎら う事で母親が自信を持つ事にも 繋がったと考えられる。 これらの関わりを通して、母親の 行動や考えを後押しする事が母 親をエンパワメントする事となり、 前向きな育児に繋がると推測さ れる。そして、母親の自身で調 べ行動を起こせる力を大切にする 事が必要であるとされる。</p>
--	--	---

(3) 短期目標③：母親はA児に対する幼さや育ちに関する不安や悩みを家族などに表出し不安の軽減ができる

事実・アセスメント	支援・反応	評価・考察
<p>A児の子育てに関する悩みを表出し、不安を軽減できる。</p> <p>【情報】</p> <p>訪問1回目・2回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A児がマイペースで、幼い事などが心配と話す。 <p>○具体的な生活での困り事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイペースなため朝の準備に時間がかかる事。 ・言葉使いが幼い事が多いため同級生からからかわれる事。 <p>○母親の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A児が朝の準備ができるように声かけを行っている。 ・嫌な事を言われたら嫌だというように伝えている。 <p>・主な相談相手：夫</p> <p>○夫の対応についての母親の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イライラしている事を理解してくれる。」と母親は話す少しイライラした不安そうな表情。 <p>○A児の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B児に一生懸命に話かける。 ・目立った多動などはみられない。 ・母親に「これなに。」と質問をする様子が見られる。 <p>訪問3回目</p> <p>○相談相手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所のA児の母友達… <p>母友達も母親と同じ悩み（A児の対人関係の問題など）を持っている。</p>	<p>訪問1回目・2回目・3回目</p> <p>【支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①母親の話に傾聴し母親の不安な思いや辛い思いを受け止めた。そして、母親の話の内容を整理し母親の気持ちが整理できるように関わった。 ②相談できる相手が他にいないのかなど相談相手となりうる人を母親と確認した。 ③これまでの関わりでみえてきたA児の優しいところなどの長所を母親と確認し、その気づきを促した。 <p>【反応】</p> <p>訪問1回目</p> <ol style="list-style-type: none"> ①A児の育児に対して困った様子で「A児の育児の方が大変。」「イライラする事がある。」と話す。A児はB児を抱っこしたり一緒に遊んだり可愛がっている様子であった。また、A児のマイペースさなど担任の先生にも相談している様子であった。 	<p>今回の関わりを通して、母親の発言や表情から母親は自身の思いを整理し家族に表出する事ができた。また家族だけでなくA児の友達の母親に相談するなど相談できる相手と一緒に確認する事でより母親の不安が軽減した事が推測される。この事から母親は不安や悩みを表出し不安の軽減に繋がったと考えられる。</p> <p>母親の気持ちを受け止め、エンパワメントしていく事でより母親が悩みや不安を持った場合でも自身の育児に自信をもち前向きな育児に繋がるのではないかと考えられる。</p> <p>また、関わりを通し、家族や地域の視点で相談できる相手の有無など確認した。母親はその存在を確認する事ができ、行動を起こすきっかけになったと推測される。家</p>

<p>○母親の行動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイペースさに苛立つ事もある。 ・インターネットで心配事は確認する。 <p>【アセスメント】</p> <p>母親はA児の育児に大変さを感じていると考えられる。母親は、担任に相談したり、A児に助言したり、問題が解決できるように行動していると考えられる。また、訪問2回目の時点では、夫に相談しているもののまだ気持ちの整理がつかないと考えられる。</p> <p>3回目の家庭訪問を通して、母親はA児の育児について現在も悩んでいる事は考えられるが、A児の友達の母親と話し同じ悩みをもっている事を知る事で母親の不安が軽減した可能性があると考えられる。</p> <p>A児の様子について母親の話や乳幼児検診時の様子から、A児には、特に発達上の問題はないと考えられる。</p>	<p><u>訪問2回目</u></p> <p>①はじめは不安な表情で話していたが、話をする中で少しずつ落ち着いた様子に変化した。</p> <p>②「夫に相談しています。」「近所の人にはあまり話していませんね。」と話す。</p> <p>③「下の子を可愛がっている。」と嬉しそうに話す。</p> <p><u>訪問3回目</u></p> <p>①「幼さにはイライラする事もあるが家では甘えたいだけかも知れない。」と嬉しそうに話す。</p> <p>②「夫にもあの後（2回目訪問後）話を聞いてもらった。A児の友達の母親に話をしたら同じ事（ある友達との人間関係）で悩んでいたから話したら楽になった。」と安心した様子で話す。</p>	<p>族や地域の人など同じ立場の相手に相談する事で、世代や価値観、状況が同じである事によって互いに理解し合う事ができ、母親自身が自分の気持ちに気がつく事ができたのではないだろうか。そして、同じ立場の相手に相談する事で母親の不安の軽減や安心へと繋がったと考えられる。</p>
--	---	--

IV. 考察

今回、低出生体重児の5ヶ月児（B児）と小学1年生の第1子（A児）のいる家庭を訪問した。B児の発育・発達には順調で母親もA児の育児経験を生かしながら楽しく育児を行っていたが、母親はA児の育児についての悩みもあった。この訪問から、B児との関わりを通して母親をエンパワメントする支援や自己効力感を高める支援ならびに、A児との関わりを通して気づきを促すための支援とピアカウンセリングの視点からの支援について、以下の4点から考察する。

1. 母親をエンパワメントする支援

家庭訪問ではB児の身体計測を母親と共に実施した。筆者は母親がB児の発育を実感できるよう母親と成長曲線にB児の発育状況を書き込み、B児の発育を確認し、体重の推移、1日平均体重増加量、カウプ指数から順調に発育している事を伝えた。

また、B児の姿勢や反射などからB児の発達が順調である事や発達において前回とどのように違うかなど具体的に母親に伝え、母親がB児の発育を実感できるように関わった。

その関わりを通して母親の表情や言葉から母親はB児の体重の増加をととても楽しみにしていた。2回目の訪問時には、あまり体重が増加していなかった事に対してなぜそのようなようになったかを適切に母親が判断して

いた。関わりの中でその母親の考え方に対して後押しを行った。

中谷¹⁾は『『潜在能力への気づき』、『効力感』等といったすべてのプロセスが確保されて初めてエンパワメントが起こる。』と述べている。この事から、訪問での関わりの中でB児の順調な成長を伝え、母親の考えの後押しをしていく事がポジティブフィードバックとなったと共に、B児の順調な成長の気づきや母親の考えの後押しが効力感の強化となり、エンパワメントに繋がったと考えられ、それを支える役割が保健師に求められよう。

2. 母親の自己効力感を高める支援

今回の訪問ではB児の月齢が5ヶ月であった事から、これから離乳食を開始していく事が考えられたため離乳食支援を行った。離乳食の支援の中で、A児の時の離乳食について、開始時期や使用した食材など会話の中で振り返りを行い、離乳食での母親の工夫点などを認めねぎらう事や離乳食に関する思いを聴く関わりを行った。

振り返りを通して母親は「9ヶ月ごろになると楽だった気がする。」などA児の離乳食の事を思い出している様子が見られた。そして、筆者が母親の離乳食などでの工夫している点を認めると「そんな事ないですよ。」と誇らしげに笑顔で話していた。離乳食に関

する母親の思いは、「楽しい」や「うれしい」というポジティブな感情が聴かれ前向きな気持ちでB児の反応を楽しみに離乳食などの育児を行っていた。A児の時の事を思い出す事や母親の工夫点を認める事、離乳食に対する思いを聴く事で母親は育児への意欲を高める事ができたのではないかと考えられる。

バンデューラーの自己効力感に影響をあたえる4つの要因として「①成功体験(努力によって打ち勝った体験)、②代理体験(努力している人が成功している姿をみる事)、③社会的説得(周囲の人から自分に対して肯定的な評価を受ける事)、④生理的・情緒的状态(身体状態を向上させ、ストレスやネガティブな感情傾向を減少させる事)」²⁾があげられる。

今回の家庭訪問での関わりからA児の離乳食の経験を振り返る事で母親のA児をしっかり育てたという成功体験を引き出し、共に確認し母親の工夫点を認め、ねぎらう事は社会的説得になり、そして、離乳食に関するポジティブな感情を表出する事は生理的・情緒的状态となったのではないかと考えられる。以上より、自己効力感を高める支援ができたと言えよう。

これらの事から保健師の役割として、母親のこれまでの経験を引き出す事や母親のできている事を認める事、母親の思いを聴き悩みだけでなくポジティブな感情を表出できるような関わりを行うなど、母親のできている部分に目を向けて認める支援を通し、母親の自己効力感を高めていく事が大切であると考えられる。

3. 母親の気づきを促す支援

訪問を通して、筆者は母親がA児の幼さや子供同士の間関係について悩みを持っている事を知り、母親の話の傾聴し、不安な思いや辛い思いを受け止め、気持ちが整理できるように関わった。

また、A児の優しいところなどの長所を母親と確認しその気づきを促す関わりを行った。その関わりを通して母親は、不安な表情で話していたが、話をする中で少しずつ落ち着いた様子に変化した。そして、嬉しそうに、「下の子を可愛がっている。」と話した。

平山³⁾は「母親の現在のありのままの姿をそのまま認めてあげる事、全面的に受け入れてあげる事から話を始めなければならない。」また、中谷⁴⁾は「『あなたのままでOKよ』というメッセージからありのままの自分を肯定し、さらに自分の子どもにも『あなたのままでOKよ』といえる関係づくり。その積み重ねはそのまま、エンパワメント・プロセスをたどるものと捉える事ができる。」と述べている。この事から、

母親の思いを受け入れる事は母親の気持ちを支え、整理をするために重要であることがうかがえる。そして、A児の優しいところなどを振り返る事で母親はA児に対する自分の気持ちに気がつく事が出来たのではないかと考えられる。

これらの事から保健師の役割として母親の不安な思いなど受容し、児のありのままを受け入れる事ができるように児のよいところに注目できるような関わりが必要であると考えられる。

4. ピアカウンセリングの視点からの支援

A児の母親の悩みに対して気づきを促す支援に加えて相談できる相手が他にいるのかなど相談相手となりうる人を母親と確認した。相談できる相手に話をし、その相手が同じ悩みをもっていた事を知り、互いに話をする事で「楽になった。」と話す様子がみられた。

高村⁵⁾は「ピアカウンセリングは同年代や同じ出身地、似たような境遇など広い意味も含まれ、こういった人々の間では、お互いを理解し、支援しようという気持ちが自然と生じるのである。」と述べている。この事から、母親は同じ思いも持つ母親と話す事で、世代や価値観、状況が同じである事によって互いに理解し合う事ができ、ピアカウンセリングとなったと考えられる。同じ立場の相手に相談する事で母親自身が自分の気持ちに気がつく事ができ、母親の不安の軽減や安心となり、前向きに育児を行う事にと繋がったことがうかがえる。

これらの事から保健師の役割として、相談相手を共に確認する関わりなど、家族や地域の力を活かす事ができるようピアカウンセリングの視点からの支援により今後も母親が気づき解決できるように関わる事が大切であると考えられる。

V. まとめ

母親は子どもの成長とともに悩みも変化させ、楽しい事や嬉しい事も多々あるが、日常的に不安も抱えながら育児をしていると考えられる。そのため、育児不安を持つ母親への支援における保健師の役割には、以下の4点があると示唆される。

1. 順調な成長のフィードバックや母親の考えの後押しから、気づきや効力感の強化を積極的に行い、母親をエンパワメントしていく。
2. 母親の経験を引き出し、母親のできている事を認め、母親の思いを聴き悩みだけでなくポジティブ

な感情を表出できるように支援し、母親の自己効力感を高めていく。

3. 母親の思いなど受容し、児をありのままを受け入れる事ができるように児のよいところに注目できるように促す。
4. 家族や地域の力を活かす事ができるよう相談相手を共に確認し、ピアカウンセリングを通して今後も相談し解決できるように促す。

保健師はこのような支援と役割を通して、母親が育児の不安を軽減し前向きな育児に繋げていく姿勢が重要であろう。

VI. 謝辞

今回事例研究を行うにあたり、快く訪問を受け入れてくださったケースの方をはじめ、ご指導・ご援助くださった保健師の皆様に深く感謝いたします。

なお本論は、文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)「幼児期における特別支援教育体制整備に関する研究」(課題番号:20730570、研究代表者:水内豊和)により、成果公開されました。

<引用文献>

- 1) 中谷奈津子. 内発的発展論におけるキーパスの役割. 佐藤守. 地域子育て支援と母親のエンパワメント 内発的展開の可能性. 岡山: 大学教育出版, 2008; 135-152
- 2) 畑 栄一. 自己効力感. 小立金彦. 行動科学健康づくりのための理論と応用. 東京: 南江堂, 2009; 15-16
- 3) 平山宗宏. 育児不安の心理と真相と援助. 古橋彰. 新母子保健相談. 神奈川: ライフ・サイエンス・センター, 1992; 172-176
- 4) 中谷奈津子. 内発的発展論と地域子育て支援. 佐藤守. 地域子育て支援と母親のエンパワメント 内発的展開の可能性. 岡山: 大学教育出版, 2008; 18-25
- 5) 高村寿子. ピアカウンセリングとは. 宮木立雄. ピアカウンセリングマニュアル. 東京: 小学館, 2005; 23-26